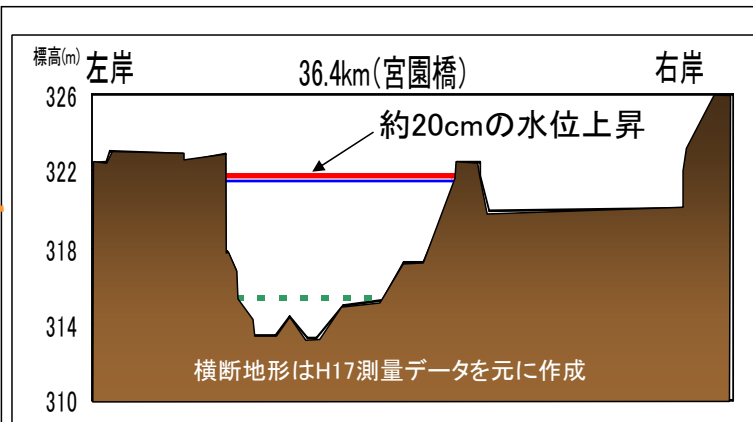
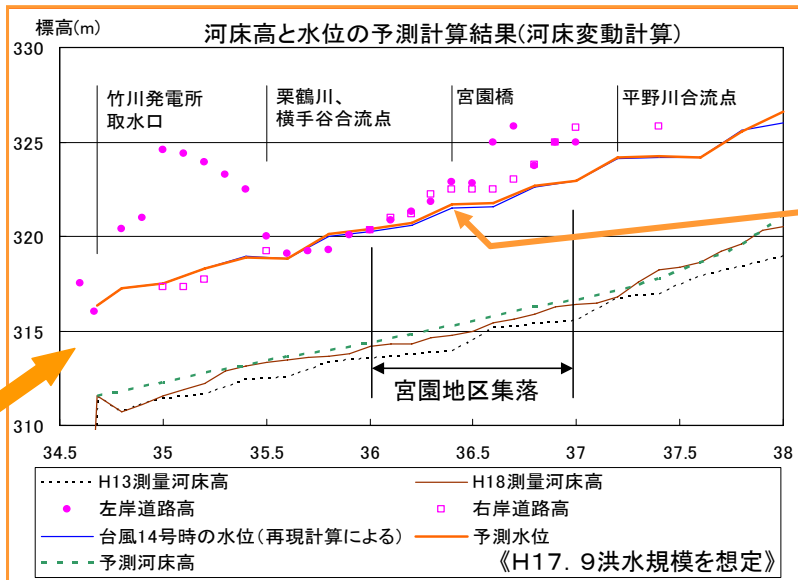
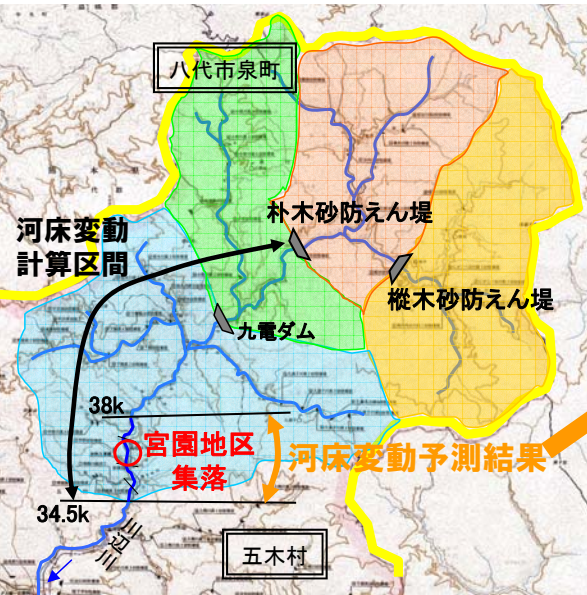
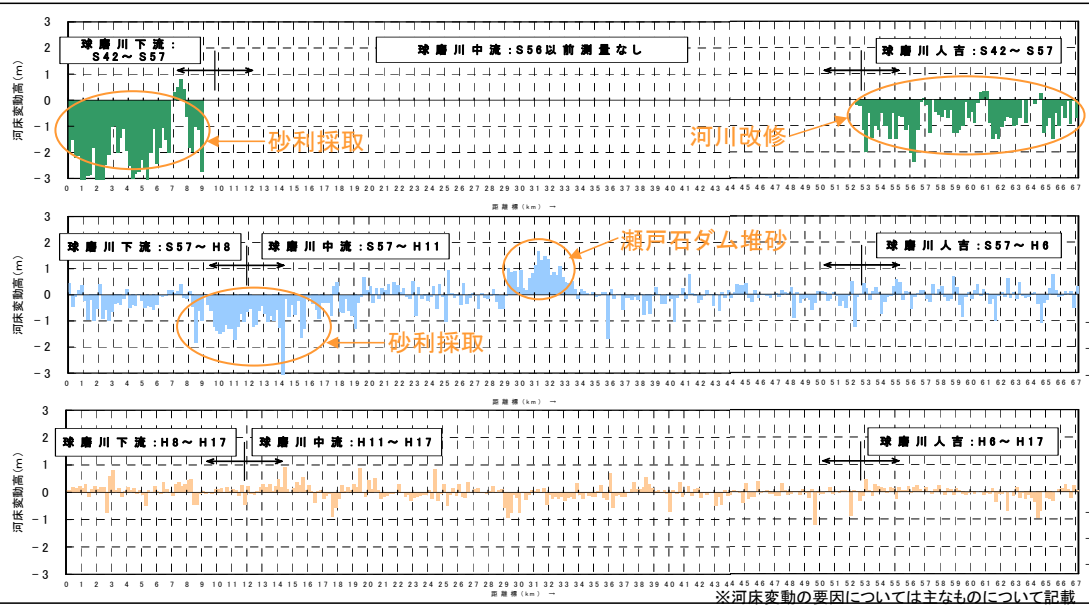


- 平成17年の台風14号において川辺川上流域では多くの山腹崩壊が発生（崩壊土砂量：約120万 m^3 ）し河道内に大量の土砂が堆積。
- 土砂堆積箇所の周辺は山間地であり、特に治水上問題ない。
- 土砂堆積箇所下流約10kmに宮園集落が存在することから、堆積土砂が流下した場合の影響について検討（宮園地区上流域崩壊土砂量：約93万 m^3 ）。
 - 朴木砂防えん堤より上流域の堆積土砂は、上流域の砂防えん堤の堆砂容量に余裕があるため、今後の出水でも土砂を捕捉する効果を見込むことが可能。
 - 朴木砂防えん堤より下流域に堆積していると想定される約25万 m^3 の土砂の影響を検討。

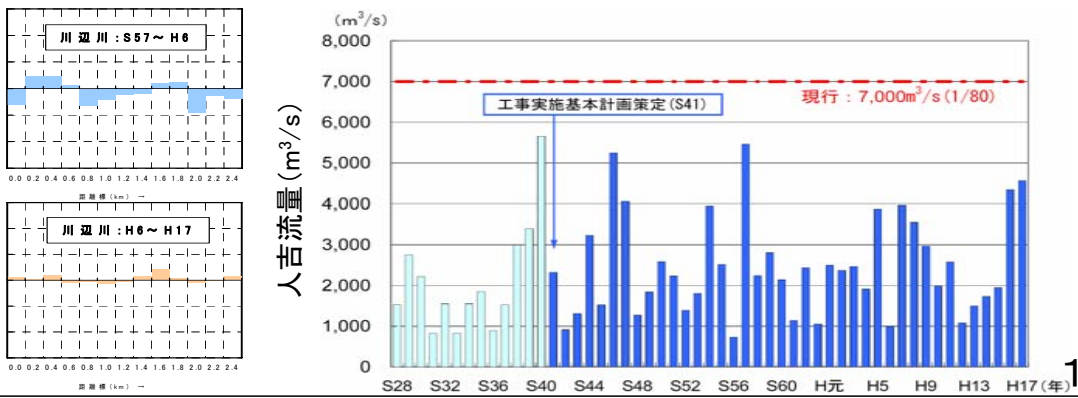


【結果】
 宮園地区の宮園橋付近では、約20cmの水位上昇が想定される。このため、引き続き土砂移動等のモニタリングを実施。



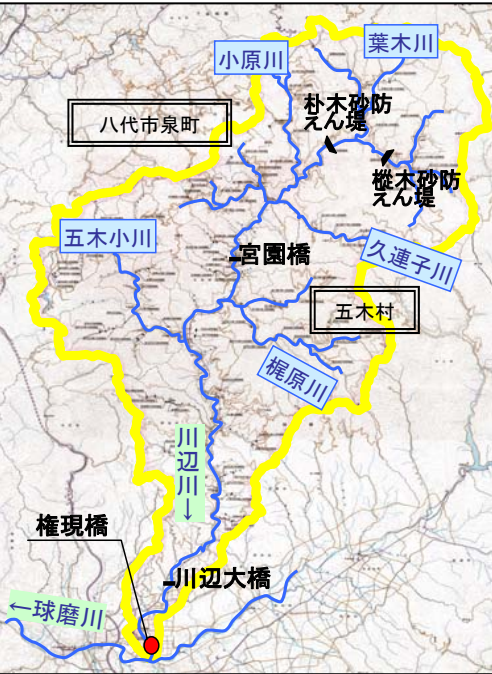
過去の洪水における河床の変動状況

- 大規模な洪水の前後に球磨川本川及び支川川辺川（直轄管理区間）の河床の変動状況を調査した結果大きな変化はみられない。
- 球磨川本川及び支川川辺川の直轄管理区間における河床の変動量は0.5m程度であり通常の河川の維持管理による対応が可能である。



○川辺川流域の濁りの発生状況

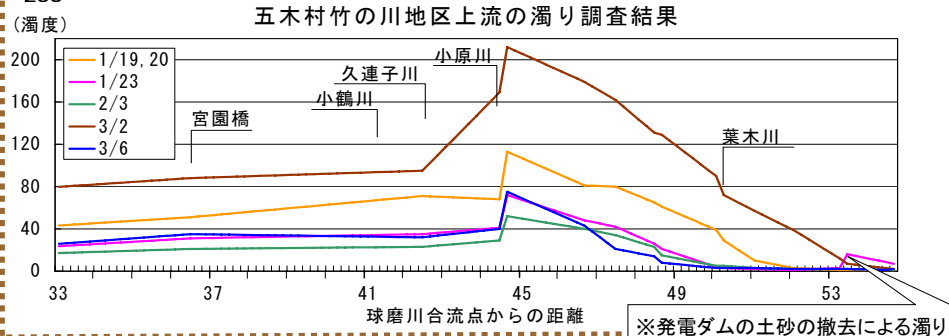
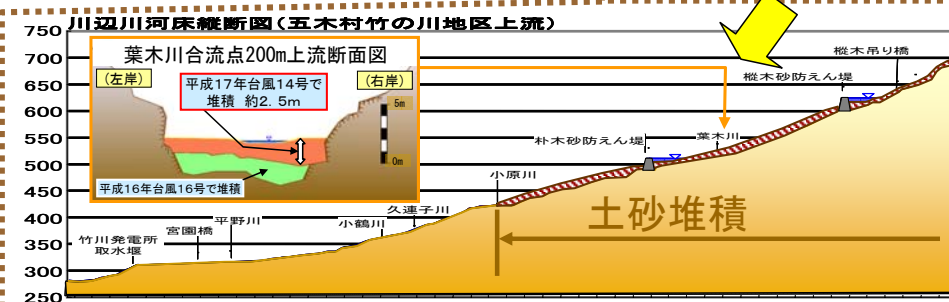
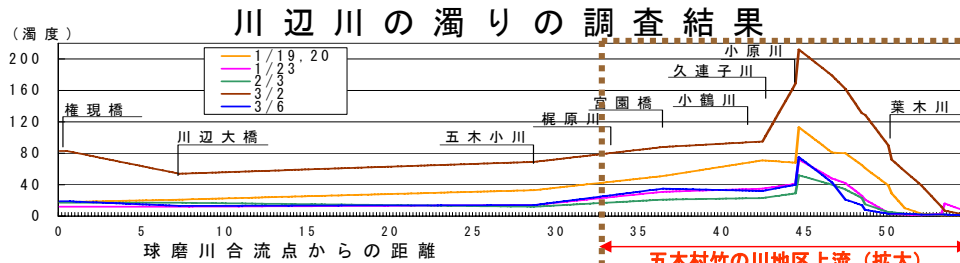
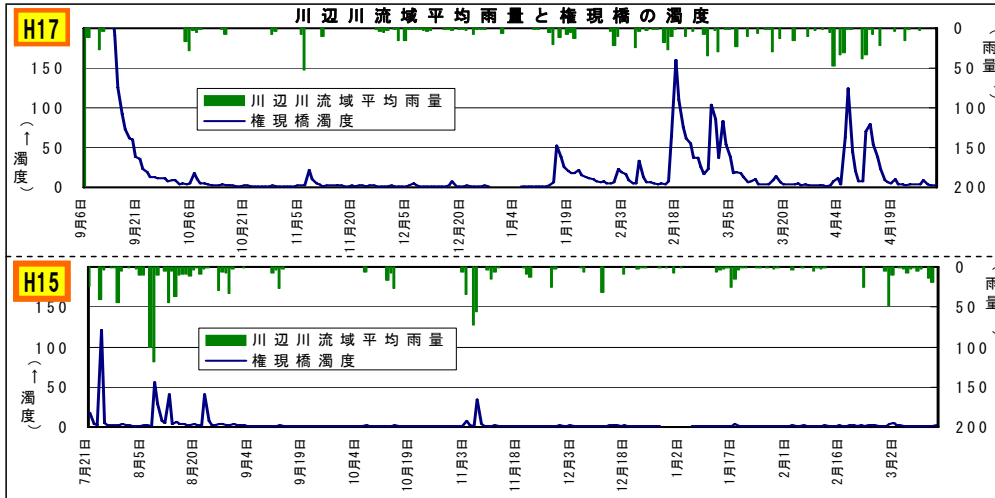
・平成17年の山腹崩壊等により微細な粒子の土砂が河道内に堆積しており、少ない降雨でも濁りが発生し濁度が高い日が続いている。



○川辺川上流の濁度調査結果

・平成18年1月以降、小降雨により流量が増加し、濁りが発生。
・土砂堆積の顕著な区間で濁りの増加が著しい。

濁度調査と合わせ、河床材料の変化や付着藻類等への影響をモニタリングし、ビオトップと組み合わせた沈砂池等について、試験的な濁水対策を検討。



○濁りの主な発生メカニズム

・河岸や河床の長い区間に渡り堆積した微細な粒子が流量の変化に伴い流出



H18年4月24日に確認された濁りについて

川辺川第二堰堤からの濁水 (H18.4.24) は、堰堤補修時に排砂門(排砂用ゲート)を開き水位を低下させるために発生したもの。なお、この際の濁水の発生は一時的なもので、下流権現橋に影響は出ていないと推定される。

